



4月号

ひだまり

今月のエッセー

平成の思い出

四月が過ぎると、「平成」の年号が終わり、新たに「令和」になります。日本国民にとって大きな節目になるのではないのでしょうか。最近では「平成の時代を振り返る」といった内容のテレビや新聞、雑誌などをよく目にします。

そこで私も時代の節目に振り返ろうと思います。一番最初に浮かんだのが、平成十八年（私が小学校六年生の時）に新しい家族になったトイプードルのダンクくんでした。今は十三歳。人間だと七〇歳くらいになるおじいちゃん犬です。私を含む兄弟がとても大好きで「飼いた



編集後記



春が来た、と思ったら寒くなり、暖かくなって桜が咲くとまた冷ええました。さらに雪が降った地域もありましたね。元号が変わる直前で、天気も落ち着かないようです。

開花した後に寒い日が続いたため、花見をした人は苦労したのではないのでしょうか。けれど、寒い分長く花を見せてくれたようです。いつもは名残惜しく感じる桜吹雪ですが、「頑張って咲いていてくれてありがとう」という思いが湧いてきました。

ルンビニ合掌苑にお邪魔するようになって三年目、最後の一年となります。感謝の念と初心を忘れずに過ごしていきたいと思います。

◆久松彰彦
ひさまつしょうげん

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗事務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四



＜お香づくりワークショップの様子＞

二月下旬、私たちは「東京禅僧茶房2019」というイベントを開催しました。今年で十年目を迎えるこのイベントは、仏教をもっと身近に感じてもらうことを目的に企画されたものです。三日間という限られた期間ではありましたが、たくさんの方が来場してくださいました。

今年のテーマは『お坊さんの人付き合いのススメ』。家族や友人などの様々な人間関係に焦点をあてて、パネル展示やワークショップを行いました。その他にも坐禅やお香作り体験、ブックカフェを通じて、参加者の皆さまと楽しい時間を過ごすことができました。

また、会場となった巢鴨の古民家には素敵な縁側があり、初春のうららかな日差しをあびながら満開の梅の花を眺めることができました。なごやかな雰囲気の中で様々な体験を通じて語り合っていると、皆さまとの温かいつながりがじんわりと感じられ、自然と笑顔あふれるイベントとなりました。今年度の企画はまだ未定ですが、昨年度よりも笑顔あふれるものになることを願っています。

◆山内弾正
やまうちだんじょう

い！飼いたい！」と駄々をこね、念願の茶色のぬいぐるみのようなダンクくんが我が家に来ました。遊ぶ時も寝る時も常に一緒に過ごし、年を重ねながらお互いが成長してきたような気がします。

私が宮城県の実家に帰ると、どこからともなくビューンと現れ、ブンブンしつぽを振って喜んでくれます。そこで実家に帰ってきたなあと実感し、安心した気持ちになります。その後はすぐに飽きてどこかに行ってしまうが……。それなのに遊びたい時は人形を啜えて、こちらに首を傾げて視線を送ってくる。そんなところもたまらなく可愛いのです。

最近は何のせいもあり、耳が遠く、一日の半分以上は寝ています。初めて会った時のように走り回ることはなくなりました。それでも休みがあれば宮城に帰り、小学校から過ごしてきたダンクくんに会うことを楽しみにしています。

年号が変わる節目に過去を振り返り、改めて大切なものを回想しました。今はダンクくんの写真を見て、次に帰る日を指折り数えています。

◆菊地志門
きくちしもん

今年度もよろしくお願ひします！

三年生



やまうち だんじょう
山内 弾正

出身：静岡県
あっという間に最終学年になりました。今年も皆様と一緒に思い出に残るようなひと時を過ごしていきたいです。



ひさまつ しょうげん
久松 彰彦

出身：東京都
趣味は写真撮影や読書です。学生の頃は剣道をしていました。最後の1年になります。よろしくお願い致します。

二年生



はた えしゅう
秦 慧洲

出身：東京都
早いもので入所して1年経ってしまいました。今年度は皆さんに顔と名前を覚えてもらえるように頑張りたいと思います！



きくち しもん
菊地 志門

出身：宮城県
明るく、楽しく、元気よく！今年も最初から最後まで、笑顔いっぱい皆さんと過ごしたいと思ひます。



新入生



にわ りゅうこう
丹羽 隆浩さん

出身地：埼玉県秩父市
趣味・スノーボード、園芸、木工作
好きな言葉・吾唯知足（吾唯だ足をるを知る）



初めまして、丹羽隆浩と申します。私は大学を出てすぐに永平寺へ修行に行きました。そこで毎日心掛けていた言葉は「腹八分目」です。
修行生活はいつもお腹が空いており、待ちに待った食事の時間になっても食べられる量は少なく、「これでは腹八分目ではなく腹五分目位だ・・・」と心の中でばやいていた覚えがあります。しかし、少ない食事でも程よく空腹感が残り、余計な欲は消え、充分頂いたと清々しい満足感があることに気づきました。
欲というものは恐ろしいもので上限を知りません。あれが欲しい、もっと欲しい、まだ足りない。そう感じる時には一旦、今の状態で充分ではないのか？と考え直すように心掛けております。
これから皆さんと過ごす時間の中で一緒に小さな気づきを学んでゆきたいと思ひます。
どうぞよろしくお願ひ致します。